

(第3種郵便物認可)

白内障に人工レンズ

病院の実力

* 島根編180

眼科

今回は眼科の治療を取り上げる。一覧表には、2021年の手術件数などの治療実績を示した。眼科の中は、「硝子体」というゼリー状の物質で満たされている。硝子体手術は眼球の白目の表面に3つ

4か所の穴を開けて、非常に細い器具で、濁った硝子体の切除などを行う。硝子体が加齢で劣化することが原因で起きる網膜剥離や、もろくなった網膜の血管が破れる糖尿病網膜症などの治療で選択される。繊細で高い技術が必要なので、大学病院などで行われることが多い。

白内障は、レンズの役割を果たす「水晶体」が加齢などによって濁る病気だ。まぶしさを強く感じたり、物が二重に見えたりして生活に支障が出てきたら、水晶体を取り除いて人工の眼

内レンズに置き換える、水晶体再建術を行う。緑内障は、眼球内の内側からかかる圧力(眼圧)が高まり、目の奥の視神経が傷つく。自覚症状がないまま進行し、視野が狭くなり、失明に至るケースもある。

早期発見で失明予防

島根大医学部付属病院眼科

河野 通大助教

豊富な治療実績で、島根大医学部付属病院眼科には県内外から患者が集まる。河野通大助教(37)「写真」に主な治療方法や特徴について聞いた。当院の目に関する手術は

早期発見できれば目薬で眼圧を下げるが、重症の場合は、角膜と水晶体の間にある液体の詰まりを解消する手術が必要になる。高齢化によって、「加齢病」とも呼ばれる目の病気が増えている。検査で不調を見つけ、早めに治療を始めることが大切だ。



基本的に入院で行われますが、以前と比較すると手術時間も短くなり、安全な手術となっています。緑内障は失明原因1位の病気です。多くの場合、進行はゆっくりで自覚症状に乏しいことが特徴です。そのため、早期発見が困難で、見づらくなつたと感じる頃には視野障害が進行していることが多いです。見え方を回復させることは困難ですが、点眼薬やレーザー治療によって眼圧を下げることで進行を予防できます。眼圧が十分下がらない場合は手術が必要になります。当院の緑内障の手術件数は国内でもトップクラスです。

障が出る場合や運転免許に必要な視力が維持できなくなった場合は手術を行います。ほとんどの小切開の手術で対応でき、日帰りで実施可能です。ただし、進化した白内障は手術に時間がかかったり、入院が必要になったりすることもあります。

硝子体手術は、ものがゆがんで見える黄斑疾患、加齢や外傷で起こる網膜剥離、目の中の出血で起こる硝子体出血などが対象です。手術には高度な技術と専用の器具を必要としま

(聞き手・玉田響子)

病院の実力「眼科」

医療機関別2021年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	常勤の専門医人 (23年1月現在)			
	硝子体手術 (件)	再建術 (件)	白内障の水晶体 (件)	主な緑内障手術 (件)
鳥取県				
鳥取大	289	888	159	8
島根県				
島根大	557	1854	666	11
県立中央	0	51	0	1
岡山県				
倉敷成人病七	701	2839	275	8
倉敷中央	312	1264	131	7
岡山大	150	820	195	8
岡山済生会総合	144	842	374	3
広島県				
広島大	522	1184	613	21
木村眼科内科	331	2628	171	5
福山市民	243	836	86	1
県立広島	132	580	66	3
広島市立安佐市民	80	418	29	1
国・呉医療セ	3	218	12	1
J A 広島総合	0	259	169	1
山口県				
山口大	390	247	210	7
小郡第一総合	42	591	24	1
J CHO 徳山中央	19	490	48	1
下関市立豊田中央	4	258	0	0

「国・」は国立病院機構、「J C H O」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター。

全国の調査結果は17日の「安心の設計面」に掲載しました。